

# 家族について考えましょう 指導のためのプログラム その2

< 展開例 >

1. 指導の機会

中学校 学年保護者会

2. 対象学年等

第1学年 保護者

3. ねらい

- ・子どもの心の拠り所は家族（家庭）にあることや子どもの心の成長を促す土台は家族（家庭）にあることを再認識させる。
- ・思春期の子どもとどう向き合えばよいかを考える。

(1) 題材 心の成長と家族

(2) 展開

時配	指導の流れ	指導上の留意点
5	<p>1 導入</p> <p>○別紙資料1「私の家族は（には）」のチェックシートに記入し、「家族」の役割について考えさせる。</p> <p>①別紙資料1「私の家族は（には）」チェックシートに記入する。</p> <p>②普段の家族の様子について感想を発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px; text-align: center;"> <p>家族について考えましょう</p> </div>	<p>○筆記用具を準備する。</p> <p>○日ごろの自分の家族の様子について振り返る機会とする。</p>
20	<p>2 展開</p> <p>(1) 家族（家庭）の役割について家庭教育支援資料「心の成長と家族」をもとに講話を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #e0ffff; padding: 10px;"> <p>&lt;ポイント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いに家族を大切にしていますか</li> <li>・お互いを認め合っていますか</li> <li>・家族一人一人が自分自身を大切にしていますか</li> <li>・家族の一員として自覚を持たせていますか</li> </ul> </div> <p>(2) 家族（家庭）とは何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛情と愛着のあるまとまり</li> <li>・信頼関係が強いまとまり</li> <li>・心の居場所、憩いの場</li> <li>・精神的自立を促すところ</li> <li>・経験と体験</li> <li>・協力し助け合い、喜び苦勞を分かち合えるまとまり</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; background-color: #ffe0b0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・子どもの心の拠り所は家族（家庭）にある ・子どもの心の成長を促す土台は家族（家庭）にある</p> </div> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>○家庭教育支援資料「心の成長と家族」を配布する。</p> <p>○家族の役割を考える中で子どもの心の拠り所は家族にあるということを強調する。</p> <p>○家族の一員として自覚を持たせるための一つの手段としてお手伝いがある。自校の子どもの手伝い状況を調査した資料などを用意するもよい。</p> <p>○別紙資料2の「家族の役割確認票」を使用し、家族の仕事分担について具体例を示す。</p> <p>○家族（家庭）とは何かを考えることで子どもの拠り所は家族（家庭）にあることを強調する。</p>

(3) 思春期（第二次反抗期）を向かえた子どもとどのように向き合えばよいかを話し合う（親の態度や言葉かけ）。

①例を示し、小グループで話し合いを行う。

<例>

- ・あいさつをしなくなった子ども
- ・なんでも「いやな顔」をする子ども
- ・「うるさい」「むかつく」を口にする子ども
- ・学校の話をしなくなった子ども

②話し合いの内容を共有する。

○各グループの話し合いで得た内容を簡単に発表してもらおう。

3 まとめ

○教師による講話を行う。

- ・反抗期にうろたえない親であって欲しい。
- ・子どもに遠慮する必要はない。親の思いをきちんと伝える。
- ・親は子どもに関心を持っているというメッセージを常に送る必要がある。

○隣の席の方と会話しやすいよう事前に座席の配列を工夫する。

○話し合いについて振り返りながら、親として子どもとどう接するかを考えさせながら進める。

○思春期の子どもとどう向き合えばよいかということについて考える機会とする。

○子どもは必ず反抗期がある。「子の反抗にうろたえない親になって欲しい」などということを具体的な例を用いながら指導する。

○親の都合で子どもとかかわっていることが多いことに気づかせる。

## 私の家族は(には)

- お互いに朝起きたら「おはよう」、寝る前に「おやすみ」のあいさつをする。
- お互いに出かけるときには、「行ってきます」「行ってらっしゃい」「ただいま」「おかえり」のあいさつをしている。
- 家族だけの行事がある。
- 誕生日には、みんなで祝っている。
- お互いに最後まで人の話を聞こうとしている。
- お互いの話を目と耳と心で聞こうとしている。
- お互いに相手の話を聞いてから考えを伝えるようにしている
- お互いに自分の思いを自分の言葉で伝えるようにしている
- お互いに一呼吸おくなど気持ちを切り替えてから一言、言うようにしている。
- お互いにプラス言葉を使う(相手を認める、思いやる、肯定的な言葉) ようにしている。
- お互いに言葉遣いに気をつける(相手の反応には敏感に) ようにしている。
- お互いにわかりにくいことは確かめるようにしている。
- 各自の仕事分担がある。
- 家族でルールを決めたり、家族会議をする機会がある。

# 家族の役割確認票

兄1長男

例：兄2

役割チャート

\* 下記欄に該当する家族がない場合は余白に記入

\* 下記欄に該当する仕事・役割がない場合は余白に記入

	仕事・役割	私	母	父	妹 1	姉 1	弟 1	兄 1	祖母	祖父						
1	家族のまとめ役															
2	取り持ち役															
3	苦情の聞き役															
4	躰担当															
5	規則制定者															
6	全責任者															
7	家族外食企画者															
8	食品買い出し															
9	献立係															
10	調理係															
11	飲み物担当															
12	配膳係															
13	下膳係															
14	皿洗い															
15	ゴミ処理															
16	食後の清掃															
17	屋外清掃係															
18	共有部屋掃除係															
19	トイレ掃除係															
20	洗濯係															
21	自分の部屋片づけ															
22	小さい子の面倒係															
23	おやつ用意担当者															
24	使い走り															
25	真実を話す人															
26	助けになる人															
27	理解してくれる人															
28	アイデアを出す人															
29	話し合う人															
30	幸福な人															
31	罰する人															
32	周りを味方につける人															
33	計算高い人															
34	人と交わらない人															
35	悩める人															
36	被害者・犠牲者															
37	叱る人															
38	家計費を稼いでいる人															
39	もめ事を仲裁する人															
40	朝食係り															
41	夕食係り															
42	家計の経理担当															
43																
44																
45																

役割 主○ 副△ 自分の役割を記入した後、家族の役割も記入

記録日 令和 年 月 日